

多様な鳥獣被害情報を一元管理・可視化

- 被害/捕獲/目撃/痕跡/わな/柵など、7種類の情報を地図上にアイコン表示
- 現場でのスマホ入力とWeb管理画面でのGIS表示が連携
- 各情報に画像・日時・位置情報・獣種・詳細情報を紐づけて記録

機器情報

➤ 機器の概要

GISツールによる鳥獣被害対策の可視化・分析システム

➤ 使用目的

鳥獣被害情報の可視化

➤ 対象鳥獣

シカ、イノシシなど鳥獣全般

➤ 特長

・鳥獣被害情報のデータ集約・管理

鳥獣の生息地や被害情報等を一元管理し、情報の検索や整理を迅速化

・対策の計画

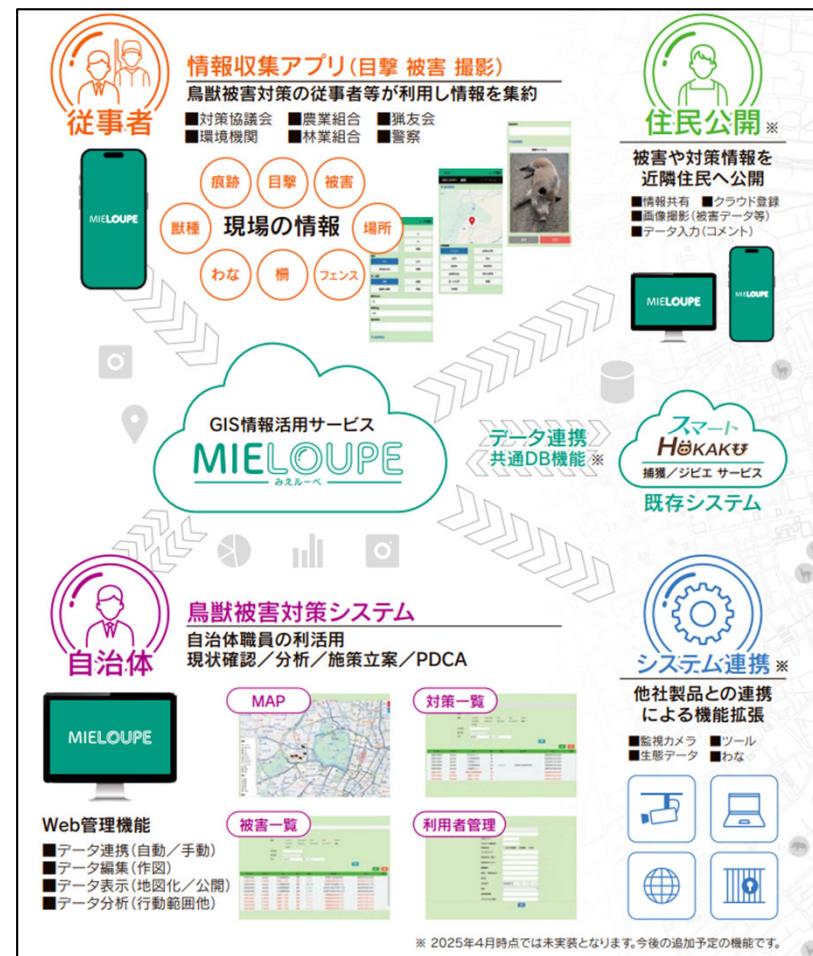
地図上での可視化により、効果的な対策(柵の設置や捕獲地点の選定)の計画可能

・モニタリング

被害状況や対策の効果をリアルタイムで把握でき、データ収集や分析が容易

・関係者間の情報共有

GISマップにより情報共有がスムーズ



活用技術

地理情報システム(GIS)、スマートフォンアプリ

導入実績

➤ 導入市町村

群馬県片品村

群馬県川場村

鹿児島県鹿屋市など

➤ 導入効果

- ・クラウド化により事務作業30~50%の軽減、
- ・農協、地区組織とのリアルタイム情報共有により、限られた人員でも被害状況の確認や対策等が可能

イニシャルコスト、ランニングコスト

➤ イニシャルコスト

50万円(税別)

➤ ランニングコスト

年間利用料: 10万円(税別)

問い合わせ先

企業名: RFJ株式会社

所在地: 東京都千代田区紀尾井町4番1号

新紀尾井町ビル3階

連絡先: (TEL) 03-3527-2820 (FAX) 03-3527-2821